美　術　科　学　習　指　導　案

題材名「自分を表す」Ａ表現

　　　令和６年９月　３年　指導者　亀井　章央

Ⅰ　題材の構想

１　題材観

自画像を描く題材は、現行の中学校美術科の教科書をいくつか見開いても必ずと言っていいほど扱われている題材の一つであり、それは私が中学生だった20年前にも行われていた。そして、中学校で美術を担当するようになった私自身も授業に取り入れていた。一方で、私自身が定番題材として扱われる自画像の魅力を最大限に理解し、その価値を見出すことができていたかという点において疑問をもっていた。

　従来の自画像題材では、「教師側が設定した技法を用いて表す」や「本物を忠実に表す」に重点をおいた絵画表現や「量感や質感を忠実に表すこと」に重点をおいた立体表現に取り組ませる活動が多いイメージがある。一方で、教科書題材には、「様々な手法で表す」題材もあるが、なかなか題材として扱っているところを見ない現状である。その現状や生徒の様子を見て、私は、義務教育の最後の年に、既習事項を生かして「自分」というものを表す活動を取り入れることが、生徒が美術の授業を通して社会の中にある美術の役割を理解し、美術科が目標とする創造的な学びを実現してくれるのではと考えた。

　本題材では、生徒が多様な表現方法の中から自分の主題に合った表現方法を選択できるように、絵画、彫刻、立体、写真、動画、インスタレーションなど様々な表現方法を鑑賞する時間を設定していく。その際に、中学校３年間の学習だけでなく、小学校６年間の学習をロイロノートで想起する時間を設けて、既習事項の学びも生かせるようにしていく。また、教科書会社のＨＰ上の全国生徒作品も見られるようにする。そのHPを生徒が自分の必要に応じていつでも見られるようにするため、ロイロノートで該当のWebサイトのURLを配信しておく。生徒が主題と表現方法と結びつけて考えられるような手立てを用意し、既習事項を生かした多様な表現を下支えしていく。

２　研究との関わり

本題材は、中学校第３学年の題材の一つであり、義務教育の最後に位置付けられた小学校図画工作科、中学校美術科のまとめの題材としている。美術科の題材の中で、表現方法や材料の選択、活動の自由度を高く設定できる題材であり、生徒が既習事項を生かして主体的に活動に取り組むことが求められる。よって、一歩間違えると放任な授業になってしまうため、教師が今までの学習を系統的に捉え、適切な介入を行いながら学びを見取り、生徒自らが学びを調整できるように支援していく必要がある。また、表現方法が絵画、彫刻、立体、写真や動画、インスタレーション等と多岐に渡り、生徒一人一人の表現方法が異なってくるため、個々の表現意図を読み取り適切な個別の支援をしていかなければならない題材であると考える。この際、教師が各領域で大切にしたい造形的な見方・考え方、造形的な視点を明確にしていないと生徒に対する具体的な支援ができなくなってしまうと考える。よって、指導案を工夫し、より具体的な表記にしていく必要がある。また、学習目標や評価を国研の指導と評価の一体化資料から抜粋するだけのではなく、生徒の意識に近い言葉で表記することにより、学び方が自由な状態となっても指導が具体化され、生徒が表したいことに向かって主体的に活動できるようになると考える。

３　題材の目標及び生徒の実態

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 目　標 | 児童（生徒）の実態 |
| 知識及び技能 | ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、主題を全体のイメージで捉えることを理解する。（〔共通事項〕）  ・小学校から中学校までで扱ってきた既習の材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。（「Ａ表現」(2)） | ・１年次の「100のテクスチャー（平面）」で材料（紙）の特徴を基にイメージをつくり出す学習をしている。  ・１年次の「色形採集」、２年次の「この気持ちを表そう」で形や色  彩などが感情にもたらす効果について学習している。  ・既習事項を生かして活動する経験はしているが、既習の題材で学んだことと現在の学習をつなげる姿は少ない。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | ・自分の感情やものの考え方、価値観、自分と社会の関わりなどを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、作品全体と部分、材料の選択や組み合わせ、環境との関わりなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。（「Ａ表現」(1)）  ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。（「Ｂ鑑賞」(1)） | ・１年次の「金の価値をアップデート　金を生かした屏風絵」で自分の感情やものの考え方から主題を生み出す活動を経験している。  ・２年次の「違和感をつくり出す（立体）」を通して、日常生活を見つめることを通して、空間との関わりを考えて主題を生み出し、材料を組み合わせて自分なりの違和感を表現する学習に取り組んでいる。  ・２年次の「この気持ちを表そう」で抽象絵画の鑑賞と表現に取り組み、感情を抽象的に表す活動にも取り組んでいる。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。 | ・美術の活動に積極的な生徒が多い一方で、作品を鑑賞するときに過去の学びを生かして深められる生徒が少ない。 |

小学校での学習も本題材を下支えしていることも踏まえ指導にあたる。

４　評価規準

|  |  |
| --- | --- |
| 知識・技能 | ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、主題を全体のイメージで捉えることを理解している。  ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。 |
| 思考・判断・表現 | ・自分の感情やものの考え方、価値観、自分と社会の関わりなどを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせ、環境との関わりなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。  ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。 |
| 主体的に学習に  取り組む態度 | ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。  ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

知識・技能における各表現方法で特に重きをおきたい視点と一例

視点：形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴など

　　　中学校学習指導要領解説【美術編】上では、「様々な形や色彩などの造形と、想像や心、精神、感情などの心の働きとが、造形の要素を介して行き来しながら深められる。」とされている。

|  |  |
| --- | --- |
| 表現方法 | 一例 |
| 絵画表現  写真・動画 | 【絵画の例】  受験勉強に対する暗い気持ちと、将来への明るい気持ちを表すために、着色する時に明るい暖色と暗い寒色を用いて表す。  【写真・動画の例】  日常で感じる様々な自分の気持ちを表すために、表情に動き（形）をつけた写真を１枚ではなく複数枚撮影する。 |
| 彫刻・立体  インスタレーション | 【彫刻・立体の例】  自分の中の二面性を表すために、立像作品の体半分は穏やかな動き、もう半分は激しく怒り狂う動きで表す。  【インスタレーションの例】  自分の中の光と闇を表すために、教室の中で一番明るい日の当たる場所に作品を置き、影も含めた作品として表す。 |

思判表における各表現方法で特に重きをおきたい視点と一例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 表現方法 | 視　点 | 一　例 |
| 絵画表現  写真・動画 | ・単純化や省略、強調  ・材料の組み合わせ  ・環境との関わり | 【単純化や省略、強調の例】  絵の具で表現する際に主題に合わせて、省略して表すことを考え、構成を工夫して構想を練っている。  【材料の組み合わせの例】  絵の具を扱う際に主題に合わせて、指と絵の具を組み合わせてできる表現について考え、構成を工夫して構想を練っている。  【環境との関わりの例】  写真や動画を撮影する際に主題に合わせて、その場の環境を考え、構成を工夫して構想を練っている。 |
| 彫刻・立体  インスタレーション | ・単純化や省略、強調  ・材料の組み合わせ  ・環境との関わり | 【単純化や省略、強調の例】  粘土で立像をつくる際に、主題に合わせて動きを強調することを考え、構成を工夫し構想を練っている。  【材料の組み合わせの例】  立体作品をつくる際に、主題に合わせて紙と工作用紙を組み合わせる構成を工夫して構想を練っている。  【環境との関わりの例】  主題に合わせて作品をどのような場所で表すか、それをどのように鑑賞してもらうかを考えて構成を工夫して構想を練っている。 |

表現方法や材料を生徒が選択・決定する自由度の高い題材であるため、教師が上記のような視点を明確にもち、支援・指導にあたる必要がある。また、この視点は生徒がどの表現方法を選んでも、声かけの際に立ち戻らせることのできる造形的な視点であるが、原点にあるのは主題である。生徒がどのような主題をもっているか／もとうとしているかが表現の意図を読み取る際の視点となる。主に、支援が必要な生徒やＢ基準の生徒に対しては、この造形的な視点と生徒の主題をもとに支援をしていく。表現方法が上記にあるものと異なる、もしくは複合する場合、生徒の表現の意図や主題を聞き取り、個別の対応を進めていく。

５　指導及び評価、ＩＣＴ活用の計画（全11時間：本時第8時）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 過  程 | 時  間 | ■ねらい  □学習活動  ★ＩＣＴ活用に関する事項 | 知 | 思 | 態 | ◆評価項目＜方法（観点）＞  ○指導に生かす評価  ●評定に用いる評価 |
| 出会う | １ | ■自分を表現する見通しをもつ。  □多様な表現方法の作品群を鑑賞し、作品に込められた思いや表現方法の特徴を考えたり、小学校からの既習内容を振り返ったりして、自分を表現するイメージをもつ。  （★）。  ［題材の学習課題・問い等］  「自己」という対象を見つめ、自分の表したいことに向かって、自分を表すことに適切な表現技法を追究し工夫して自分を表そう。 |  |  | ○ | ◆美術の創造活動の喜びを味わい主体的に自分のイメージを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。〈観察・ワークシート（態①）〉 |
| 試す  ・  広げる | ２ | ■自分を表現する方法を試行錯誤し見つける。  □自分を表すために、調査と資料集めをしたり、既習事項で扱った材料や用具等を用いて表現を試したりする（★）。 | ［本時のめあて・課題・見通し等］  調査や資料集めをしたり、既習事項で扱った表現方法、材料や用具等を用いて表現を試したりしながら自分を表現する方法を見つける。 | ● |  | ◆対象や事象を深く見つめ感じ取っ  たことや考えたことなどを基に自分を表すための主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せ、環境との関わりなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。〈ワークシート（思①）〉 |
| 表す | ３  ４  ５  ６  ７  ８  ９  10 | ■自らの主題に向かい、既習の表現方法、材料や用具の特性を生かして、自分なりに自分を工夫して表せるようにする。  □既習の表現方法や材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、自分を表す。 | ● |  | ○ | ◆形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、自分のイメージをもとうとしている。〈表現活動、ワークシート（知①）〉  ◆材料や用具の特性を生かし、意図  に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。〈表現活動・ワークシート（知②）〉  ［本時のめあて・課題・見通し等］  自分を表すために既習事項を生かし、表現方法を追求して表す。 |
| 振り返る | 11 | ■互いの作品を鑑賞することで、材料や用具の使い方と表現の工夫について深く考え、自分の表し方の多様性や表現の意図に気づけるようにする。  □自分を表現するための工夫についてまとめ、互いの活動を鑑賞する（★）。 |  | ●  ［本時のめあて・課題・見通し等］  表現の意図を考えながら、互いの表現を鑑賞しよう。 | ● | ◆造形的なよさや美しさを感じ取  り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。〈表現活動・ワークシート（思②）〉  ◆美術の創造活動の喜びを味わい、  主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。〈観察・ワークシート（態②）〉 |